****

2014年度（第92期）事業報告書

****

技術と社会部門：
部門長　高田　一　他　運営委員４３名，総務委員１９名
運営委員会開催　２回，総務委員会開催４回

１）部門内に工学・技術教育委員会（佐藤智明委員長），イブニングセミナー企画委員会（奥村喜勝委員長）を設置した．
２）部門運営委員会およびそのもとに設置された総務委員会，広報委員会，表彰委員会，機械遺産委員会，ロードマップ委員会，ホームページ管理運営委員会，国際会議実行委員会，イブニングセミナー企画委員会，イブニングセミナー実行委員会，工学・技術教育委員会で部門運営にあたった．
３）No.14-1　2014 年度年次大会（9 月 7～10 日，東京電機大学東京千住キャンパス）において，OS 3 件（部門単独），WS 4 件（部門単独）を企画・開催した．OS の内訳は，S201 技術教育・工学教育 22 件，S202 機械技術史・工学史 9 件，G201 部門一般セッション 4 件である．また，各実行組織の報告事項として後述するが，「機械遺産委員会によるパネル展示」と「スターリングエンジンの教育から実用まで」の部門単独 2 件の市民対象行事を企画・開催した．9 月 8 日に部門同好会を南千住丸高屋で開催し，15 名が参加した．
４）No.14-63　部門講演会「技術と社会の関連を巡って：過去から未来を訪ねる」（11 月 15 日，愛知大学豊橋キャンパス）を日本設計工学会との共催により開催した．「技術教育・工学教育」，「機械技術史・工学史」，「設計教育・CAD 教育」，「エネルギー教育・環境教育」の 4 つのオーガナイズドセッション，「東海地方の産業技術と技術史」の特別セッションおよび 1 つの一般セッションを設け，43 件の講演が行われ，57 名が参加した．
５）No.14-127 見学会「東海地方の技術史を訪ねて」（11 月 16 日，愛知県豊橋市，新城市および豊川市）を開催し，23 名が参加した．
６）会誌 2015 年 8 月号「機械工学年鑑　第 22 章」について，2 ページの配分を受け，執筆分担を 1．概観（高田一部門長），2．技術・工学教育（佐藤智明委員），3．技術史・工学史（緒方正則委員），4．産業遺産・機械遺産（池森寛委員），5．技術者倫理（橋本英樹運営委員）とした．
７）各種委員会に，吉田敬介委員（ロードマップ委員会），大久保英敏委員（新学術誌創刊準備委員会），佐藤建吉委員および高橋芳弘委員（トピックス委員）を委員として派遣し，学会運営に協力した．
８）会誌 2015 年 3 月号のメカライフ特集号で「文化と機械」と題し，機械の歴史，保存，伝承について，部門の総務委員が中心となって，執筆を予定している．
９）広報委員会は，9 月 18 日付けで部門ニュースレター（NL）No.31 を部門ホームページ上に発行した．さらに 2015 年 1 月に部門ニュースレター（NL）No.32 を発行する予定である．
１０）機械遺産委員会は，2014 年度認定機械遺産候補を選定し，8 件が認定された．
１１）機械遺産委員会は，2014 年度機械の日における機械遺産認定式典（8 月 7 日，東京・ 早稲田大学国際会議場）に出席し，認定機械遺産 8 件を解説・報告し，開催に協力した．
１２）機械遺産委員会は，2014 年度年次大会（東京電機大学）において，市民対象行事として 9 月 8 日から 10 日まで大会会場の東京電機大学にてパネルの展示を行った．
１３）機械遺産委員会は，機械遺産に関する朝日新聞 など多数の報道機関の取材に協力した．
１４）表彰委員会は，11 月 15 日開催の 2014 年度部門講演会（豊橋市）後の部門懇親会において，綿貫啓一氏（埼玉大学）に 2013 年度部門賞の功績賞を贈賞した．また，2013 年度部門一般表彰の優秀講演論文表彰を，阿部慶子氏（日本アドバンストテクノロジー㈱）に贈賞した．
１５）表彰委員会は，運営委員会の審議結果に基づき，小野寺英輝氏（岩手大学）を 2014 年度組織推薦によるフェロー候補として応募し，理事会において承認された．
１６）表彰委員会は，2014 年度部門賞（功績賞，業績賞）と部門一般表彰（優秀講演論文

表彰）の候補について 1 月 6 日に応募受付を締切り，審議中である．
１７）イブニングセミナー実行委員会と旧技術と社会問題研究会が中心となり，イブニングセミナーを 3 月 19 日（義足でオリンピック記録が超えられるか？），4 月 30 日（ものづくりと博物館），5 月 28 日（世界と日本の揚水器(機)・ポンプの歴史），6 月 25 日（福島県南相馬市における東日本大震災の被害－地震動，津波，放射能汚染と除染－），7 月 30 日（医療を産業ととらえた時の産業界の課題－スイス製同時 5 軸マシニングセンターを設置して思うこと－），8 月 27 日（魂を写しだすポートレート写真），9 月 24 日（玉の科学），10 月 29 日（香料って何？調香師ってどんな人？），11 月 26 日（裁判での判断を支える技術鑑定），12 月 17 日（子どもに自慢できる静電気の魔法の使い方(実習付き)），2015 年 1 月 28 日（パキスタンを車椅子クリケットの殿堂に）（予定）の計 11 回開催した．会場としては，明治大学駿河 台キャンパスを使用している．また，東京以外でのイブニングセミナー（豊橋太陽光利用型植物工場 IGH(Innovation Green House)の取組み）を 11 月 14 日に愛知県豊橋市において開催した．
１８）旧技術倫理委員会およびエンジニアリングリスク研究会関係者は，5 月 17 日と 11 月 29 日に特別講演会「技術者のための技術者倫理セミナー」を明治大学駿河台キャンパス（リバティタワー）および東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京にて開催した．それぞれ 16 名と 10 名の参加者があった．
１９）旧技術倫理委員会およびエンジニアリングリスク研究会関係者は，セミナー企画のため，4 回の打ち合わせを行った．
２０）ブルネル・スピリット研究会は，2014 年度年次大会（東京）において，技術と社会部門と交通・物流部門との共同企画としてワークショップ【W20400】「空気圧鉄道・空気輸送システム」（9 月 9 日午後）の開催に際して，企画・検討，ブラジルからの講演者の招致などの研究調整を行い，行事を開催した．また，9 月 12 日午前中には，米州開発銀行（IDB）アジア事務所（東京）において，関連行事として技術セミナー「空気鉄道 AEROMOVEL の紹介」―ブラジル・ポルトアレグレでの鉄道イノベーション―を開催した．
２１）スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は，2014 年度年次大会（東京電機大学千住キャンパス）において，エンジンシステム部門と共同で，9 月 7 日に市民対象行事として「工学教育・技術教育のための教材開発や行事機関区運営」を実施した．講演者 3 名を含め 28 人の参加者がいた．この講演会は，公開研究会としての位置付けである．2015 年 1 月発行予定のニュースレターにて報告する予定である．
２２）スターリングエンジンを活用した工学教育研究会は，大分大学との共催で，大分大学旦野原キャンパス工学部講義棟 204 号教室を会場に，11 月 2 日に第 4 回低温度差スターリングエンジン競技会・発表会を開催した．当初の予定では，大分県の少年少女科学体験スペース O-Labo オーラボを会場に，10 月 13 日に開催する予定であったが，台風の影響で 10 月 9 日付で会場と開催日を変更した．6 組の団体が出品し，20 人が出席した．本行事については 2015 年 1 月発行予定のニュースレターにて報告する予定である．また本会の記述はないものの，大分合同新聞 11 月 3 日朝刊の 23 面に写真と共に報道された．
２３）工学・技術教育委員会は，2014 年度年次大会（9 月 8～9 日，東京電機大学）において，OS（S201 技術教育・工学教育および S202 エネルギー教育・環境教育）を提案し運営した．また，2014 年度部門講演会（11 月 15 日，愛知大学）において，技術教育・工学教育セッションの企画立案および運営を行った．
２４）技術教育・工学教育研究会は，過去 10 年間の年次大会における技術教育および工学教育に関する研究発表を集めた講演要旨集の編集作業を行った（2015 年度中に発行予定）．
２５）持続可能なエネルギー利用に関する工学教育研究会は，日本大学工学部との共催で，No. 14-72「第 7 回新☆エネルギーコンテスト」（10 月 18 日，日本大学工学部 70 号館）を開催し，これに併せて「新☆エネルギーコンテスト」ホームページ（部門ホームページからリンク）の立ち上げ，イベントへの協賛（賞品提供及び審査）企業確保，概要集の出版に関する活動を行い，8 社 1 団体の協賛を得た．参加作品は 14 作品で，当日の参加者は 84 人であった．次年度も日本大学工学部（郡山）を会場に開催することが決定している．本行事については 2015 年 1 月発行予定のニュースレターにて報告する予定である．
２６）持続可能なエネルギー利用に関する工学教育研究会は，No. 14-107 見学会「福島再生可能エネルギー研究所を訪ねて」（10 月 17 日，福島再生可能エネルギー研究所）を企画・開催し，14 名が参加した．

２７）東海支部総会講演会（3 月 19 日，大同大学）において、技術と社会部門のセッションを設け，10 件の講演を行い，ミニシンポ「なぜ日本に産業技術博物館がないのか ー戦前戦後の工業教育改革と博物館運動ー」を開催した.
２８）No.14-205 第 7 回経営と技術移転に関する国際会議（The 7th International Conference on Business and Technology Transfer, ICBTT2014）（12 月 4～6 日，独国マグデブルグ大学）を開催した．参加者は 33 名であり，招待講演 3 件，一般講演 18 件，ワークショップ講演 1 件があり，活発な討論がなされた．本国際会議は，経営と技術移転や工学教育をはじめとした講演や討論, 大学施設見学やテクニカルツアーを通じた情報収集などにより，参加者にとって充実した国際的な交流や情報交換が図れた.
２９）学会連携活動として，日本技術史教育学会が 8 月 21，22 日にブータン王国で開催した 2014 年度ブータン国際会議（ICESTEH 2014 Bhutan）に協賛した．同国際会議への本会および主催学会・後援３団体から 39 名，ブータンから 10 名以上が参加した．部門長が技術者倫理に関する基調講演を行った.